

# 福島第1原発 依然高線量

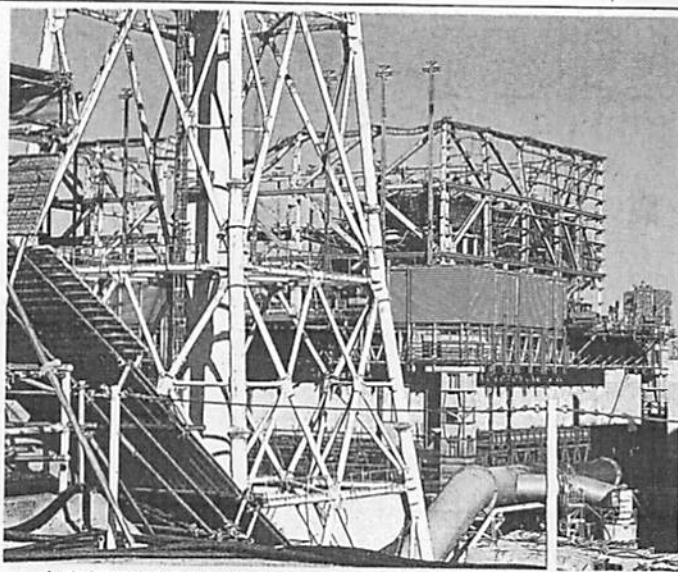
## 東電公開 鉄骨むき出しのまま

東日本大震災で炉心溶融（メルトダウン）を起こした東京電力福島第1原発（福島県大熊町、双葉町）が4日、昨年が続いて日本記者クラブ加盟の報道関係者に公開された。この1年で、原子炉建物内にある使用済み燃料プールの燃料取り出し作業が一部で始まったが、鉄骨がむき出しにな

った箇所などはそのまま。目に見える大きな変化はないのが実情だ。

廃炉に向けた状況を知ってもらおうと、東電が視察や取材を受け入れている。これまでに地元住民や協力企業の社員ら約2万人が視察に訪れた。

水素爆発を起こした1号機は鉄骨がむき出しのま



水素爆発が起き、鉄骨がむき出しのままの福島第1原発1号機＝4日午後、福島県大熊町（代表撮影）

ま。2018年1月、遠隔操作による大型クレーンでがれきの撤去を始めたが、放射性物質が飛散しないよう建屋を覆う必要が生じたため、作業が後ろ倒しにな

っている。

2号機はロボットによる建物内の調査が進み、21年中に溶融燃料（燃料プア）の取り出しを始める予定。3号機は19年4月から、使用済み燃料プールからの燃料取り出しが始まったが、まだ1割ほどしか進んでいない。廃炉措置終了まで30～40年を目標に掲げるが、道のりはまだ遠い。

東電によると、第1原発では現在、1日平均約4千人が働く。敷地の約96%は一般の作業服で入れるが、その割合も1年前からは変わっていない。取材中、場所によっては放射線の線量計の数字がぐんぐんと上がった。原発事故の実相に今後も向き合う必要があると実感した。（村上晃宏）

2020.2.5(水) 神戸新聞分

何も起こらなくても課題山積の中  
今我々には前の見えない課題の中  
ただ歩みは止めていない。

りモトへの意識が高まった今  
こそ大きな技術革新が進んでい  
かも。

ピンチをチャンスに!!